

A-67 食餌の血清リポタンパクに及ぼす影響
日本女大家政 ○田中千寿子 野崎幸久

目的 食餌中の脂質、糖質の種類により血清脂質が影響をうけることについては多くの報告がなされている。また高脂血症のスクリーニングにセルローズアセテート膜電気泳動による血清リポタンパク像が広く用いられている。そこで食餌の違いが超遠心分離による各血清リポタンパク分画の電気泳動像に及ぼす影響について検討した。

方法 約100gのWister系雄ラットを1週間コントロールの後、コントロール食、コレステロール1%添加食、ラード食、蔗糖食を4週間自由摂取させた。断頭により血液を採取し、肝臓摘出後、超遠心分離法により血清リポタンパクを分離し、各分画について総コレステロール、トリグリセライドの測定、Cellogel膜による電気泳動（オゾン化シッフ染色法）および肝粗脂肪の測定を行なった。

結果 血清総コレステロールはコレステロール添加食群が多く、各分画にはほぼ同じ割合で含まれていた。また他群はコントロールに比べ少なく、HDLに多かった。トリグリセライドはコレステロール添加食がわずかに高値を示した。電気泳動像は血清の場合、各群に2分画が認められ、超遠心分離後の各分画の泳動像はVLDL、HDL分画が染色されコントロール食群、ラード食群、蔗糖食群ではHDLが、コレステロール添加食群ではVLDLが濃染された。しかし、LDL分画はCellogel膜による泳動では染色されなかった。肝粗脂肪はコレステロール添加食群が特に高値を示した。

なお、アクリルアミドゲルによる電気泳動像についても検討中である。